

あかがし

本山寺山^{もり}森林づくりの会会報（第3号）



元気な顔 顔 顔 今日も安全第1に

あかがし3号が発刊される運びとなりました。2号を発刊してから4年、活動がますます活発になったことは喜ばしいかぎりです。トレイルラン、沢登りの方々の参加も活発化の一因であったと思います。私は、本会設立以来会長を努めてこられた金井良碩さんの跡を継いで、2016(平成28)年4月から会長を努めることになりました。ご支援ご協力のほどお願い申し上げますとともに、運営に携わる方々のご努力に御礼申し上げる次第です。

森林整備作業は普段あまり使わない筋肉を使う全身運動で、作業後の心地よい爽快感、森が再生されていく様を見る充足感は得難いものがあります。といっても危険を伴う作業でもあります。道のない傾斜のきつい斜面での作業では滑り落ちるかもしれません。伐った木が転がってくるかもしれません。安全にはくれぐれも気を付けて作業してください。元気で安全に活動されることを祈念いたします。

活動報告(2015年度~2018年度)

2012(平24)年6月の発足から2014(平26)年度までについては既刊の会報にゆずるとして、ここでは2015年度~2018年度の4年間の活動を概略する。我々の活動は、一言でいえば本山寺山国有林49.11haの森林保全である。スギやヒノキの人工林が多くを占めているため、それらの間伐後の放置木を処理する作業に結構時間を割かれる。適当な長さに玉切りし、土留めを兼ねて棚積みする。そして枯損木を除伐したり枝打ちしたりすることによって斜面の地肌に日が射してくると、安らぎとやりがいを感じるものである。

2015年度~2016年度

作業道の整備や林床整備そして枝打ちなど普段の作業に加え、ナラ枯れ防止処置、モミや山桜などの広葉樹の植樹、活動の拠点となる物置の設置も手掛けてきた。植生調査兼植栽業の「アドプランツコーポレーション」に、モミ他数種の育苗・育樹、などの適地に植樹した。



2017年度~2018年度

モニタリング調査区4か所の設定が新規事業である。2013年度から国の「森林・山村多面的機能発揮対策交付対象団体となっているので、2017年度から3年間の新たな実施項目として加えられたものである。100mの円形調査区を設定し、林床整備や除伐などの手を加えながら、めざす森づくりの指標となる区域としての成果を観察しようというものである。一方、この間遭遇した事象として2018年9月4日の台風21号の直撃に触れておかねばなるまい。特に南東に面したスギ・ヒノキの人工林とモミ・ツガの大径木が大量に根こそぎ倒され、東海自然歩道も何か所にわたって風倒木により塞がれてしまった。徐々に復旧作業に取り組んでいるものの、森林づくりはいよいよ長期戦にならざるを得ない。

附記

森林管理事務所のメールニュース「平安」第16号(2009年2月)に、“本山寺の境内周辺約14haはモミ・ツガ・カシ類などのすぐれた天然林が残されていることから、「本山寺自然環境保全地域(特別地区)」に指定されている”と。自然環境保全地域という看板を見た記憶はあるが、これで納得。

2015年度～2018年度 月毎の参加人数一覧表

定例活動日 第1木曜・第3日曜（雨天登壇）

月	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
4	2	16名 45林班の作業道整備	0	0名	2	17名	2	15名
5	2	19名 チェーンソー講習	4	28名 自然歩道の水切り溝整備	3	20名 モニタリング2か所設定	2	18名
6	2	17名	1	9名	2	21名	2	21名 深谷崩壊止め木柵設置
7	2	15名 ナラ枯れ防止策	2	17名	2	20名 モニタリング2か所設定	2	14名
8	2	14名	3	17名 物置設置の基礎造り	2	17名 さとり視察	2	16名 安全講習（伐木の基本）
9	2	17名	1	7名	2	11名	2	22名 台風の被害状況確認
10	2	17名	2	17名	2	10名	2	25名 体験5名
11	2	18名 おおさか山の日（11月第2土曜）体験参加 14名	2	18名	2	14名	2	22名 体験3名
12	2	18名	2	17名 モミ、山桜など植樹	2	15名	2	31名 体験5名
1	2	16名	1	7名	2	14名	2	15名 体験5名
2	2	17名	2	17名	1	5名 モニタリング現況調査	3	28名 体験4名
3	2	15名	2	12名	2	20名	2	16名 体験1名
計	24	195名	22	166名	24	190名	25	233名

本山寺山の地図



上図は「おおさかみどりのトラスト協会」編「みどりのトラスト24号」に掲載されたものです。

左図の通り、森林づくりの活動地、本山寺山の国有林は高槻市の北部に位置し、神楽山寺ロバス停からボンボン山に登る東海自然歩道の西側、標高は約300mから640mのエリアである。

林相の特徴としては戦後復興の木材需要から免れた貴重な森林—モミ・ツガの巨木が残っている(*)。また、ササユリやカヤランなど生育が少なくなりつつある植物も確認されており、市街地に近く、身近なハイキングコースが整備されている森林としては、自然性の高さがうかがえる、と評価されている。

(*)モミ・ツガは主に標高の高い尾根筋や溪合に聳えている。平成30年秋の台風21号により倒れたり折れたりしたものも多いが、地表には幼木も芽吹いていて、今後の生育が期待される森林である。



カヤラン

本山寺山国有林は右図の線で囲った部分、面積は約49haで、44林班と45林班の二つの林班に区画されている。

日本山岳会関西支部は、それまでも自然保護の一分野として森づくり活動に関心を寄せていて種々検討の結果、この山での活動を目指すこととした。そして、2012年5月、近畿・中国森林管理局と「社会貢献の森における森林整備等の活動に関する協定書」を交わし、この山を「日本山岳会関西支部本山寺山の森」と名付けて広く一般にも参加を募り、「本山寺山森林づくりの会」を発足させた。

2013年度からは林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の交付対象団体となっている。



森林の境界を守る

国有林の境界は実際に現場へ行くと作業道が併行したりして不明瞭な場所がある。そこで本会では、他人所有の森林に足を踏み入れないように、国が設置している標識に沿って、補助的に標識を設置し、我々の活動の便宜を図っている。



左の写真は左下にコンクリート製の標識、右上に本会の標識が立ち木に巻かれている。



右の写真はコンクリート製の標識を拡大したもの



左図は44林班で、「モニター地点②」の表示がある。

右の写真は現場で撮影したもの



左図は45林班で、右方に「分岐0」の表示がある。

右の写真は現場で撮影したもの



写真で顧みる4年間(2015年度~2016年度)

ナラ枯れ防止処置 2015年5月



チェーンソー研修 2015年5月



物置の基礎づくり 2016年8月



モミの植樹 2016年12月



枯れ木の除伐でも受け口づくりから
2016年11月



写真で顧みる4年間(2017年度~2018年度)

江間森林官と意見交換 2017年7月



水切り溝の補修 2017年6月



さとり協議会の視察 2017年8月



砂防用の簡易木柵づくり 2018年7月



台風被害—自然歩道復旧作業 2018年11月



作業道づくりを終えて 2019年2月



会員の声 (五十音順)

内海宏一



この日(8月第3日曜)は報告義務化されている年に一度の伐木作業安全講習会。作業小屋に集まり、午前は講習及び作業手順の再確認。午後はそれに応じて実技。講習会は伐木の仕方、かかり木の処理、作業手順の基本と全てにおいて安全第一の姿勢を再確認。やっぱりそれが一番大切なこと。昼からは実技講習。枯れた針葉樹の伐木と鹿で樹皮が食い荒らされて枯れ木になる恐れのある広葉樹4本伐木。

敢えて斜面での困難な場所を選んで、作業や全ての倒木の方向にかかり木の恐れがあるなか、受け口とガイドロープを補助に使うって倒木の方向を決め作業開始。でもなかなか上手くならないのもご愛嬌。先輩から厳しいご指導もいただき、枝払い、玉切り、土留めの棚積み処理して終了。今日もいろいろ勉強となりました。

その後、この会の会員でもある山田さんの嵐山高槻東海自然歩道ランイベントグループが作業場所に来てくれたので、しばらく作業を見てもらう。ボンボン山には驚くほどの多くの知り合いが集まって賑わっていたとか。より安全なトレイル整備にも力が入ります。そういう方々にも作業見学を兼ねてボンボン山へ遊びに来てほしいと思います。

講習会のお疲れさまは入浴と会員親睦会、古くからの会員さんがトレイルランに興味を示して多くの質問をしてくれて嬉しい。いつか一緒に山へ行きましょう！高槻の街にも知り合いが集結。いつもの楽しいトレイル談義も弾む。やっぱり山は楽しい。

工藤貴士



私が森林整備の活動を始めたのは、やはり昨年の台風による倒木被害を何とかしたいと思ったからです。いつも行く近所の山もやはり立ち入り禁止になっており、この状況をなんとかしたい。でも勝手には出来ない。どうしようか。そんな時、トレラン仲間で森林整備のボランティアを募っている事を知り、それからは月に1~2回整備作業に携わらせて戴いています。

会のメンバーはシニア層の方が多く、私も今年で55歳ですが、どちらかというと若手になり、会の存続を考えると早く整備事業を学び、続く人に教えていけるようにならなければ…。

この会の魅力は、私は元々林業には興味があり、こういった伐木や森林管理はかつての夢でした。伐木等の保全活動もやりがいがあり楽しんでいます。また、会を通して知り合う先輩方々やトレラン仲間との交流もまた楽しみのひとつです。

昨今、トレランを取巻く環境も意識も厳しくなってきました。自然保護活動と自然の中で開催されるスポーツは自然保護の観点からすると相反するものです。その中で自分自身出来る事を、楽しみながら続けて行けたらと思っております。



越野雅美

山へ登ったり走ったりするようになって、7年ぐらいたちます。主にひとりで行動していたのですが、昨年6月頃からグループのイベントに参加する機会に恵まれ、そこで山を走るといふことで、山とどんな関りが出てくるのか改めてわかったことや、知らないことが沢山あることに気づきました。

2018年8月末、連続する台風に、とどめのスーパータイフーン21号で甚大な被害が出た東海自然歩道の存在を知り、西の起点箕面から嵐山まで行こう！と意気込んだ矢先でした。イベントのリーダーをしていた山田さんから本山寺山森林づくりの会を知り、11月体験後12月本会員になりました。

整備に関して無知な私が本会員になっても大丈夫なのか？ドキドキしながら体験をしました。伐採や整備の知識を持っているしっかりとした先輩方の存在と、初心者で非力でも、そして何よりマイペースに参加しても受け入れてくれる雰囲気、本会員になろうという思いに至りました。

朽木一本を処理、不整地に道をつくるためには、知識と知恵と連携、そして多くの時間が必要なことを知りました。活動の中で多くのことを学んで、そして子ども達に伝えられることを貯金していきます。

年に数回しか参加できないですが、細く永く続けられる活動として、大切にしていきたいと思えます。よろしくお願いいたします



「美しい森林を後世へ」 福西勇之助

私は学生時代サイクリング部に所属し、日本各地の道を自転車で走っていました。北海道や東北、信州の夏合宿を通じて山々が織りなす大自然の雄大さに心惹かれていきました。数年前にトレイルランニングを始めからは、週末に木々の生い茂る山を駆け回るうちに、キラキラと煌めく木漏れ日の中、サラサラと頬をなでる心地よい風、時にはチラチラと舞う粉雪の中を走る楽しさにすっかり引き込まれていきました。

走る傍ら、もっと山を安全で誰もが親しみ楽しめるものにしたいという気持ちが強くなり、トレイルロードの整備のお手伝いをさせて頂くことになりました。その活動は、私にとって走ること以上に魅力的なものとなっていきました。

そんな中、昨年台風で高槻や京都の山々が被害を受けたことを知り、走ることに主眼を置いた山の整備では不十分ではないか？もっと広い視点で山の整備について考え、災害に負けない森林づくりが必要ではないかと思い立ち、山田さんの呼びかけをきっかけとして、この会へ自分の誕生日に入会させて頂きました。

森林づくりは、災害から森を守り育むことで、そこを源流とする川の環境を保全し、その川が流れる海の環境を守り、私達も含めそこに生きる多くの生物の命を守ることに繋がると考えています。

私の目的は森林づくりの活動を通じて、美しい森林・川・海を後世の方々にプレゼントすることです。森林づくりは終わりがなく途方もない作業です。またその活動が川や海に及ぶまでどのくらいの時間が必要か考えも及びません。私一人では本当に何にも出来ませんが、同じ思いを持った人たちと頑張っていきたいと考えております。微力ではありますが、どうぞ末永くお願いします。



「ビックリしました」

山 國

宮本さんのお誘いで2年前から参加させていただいています。山歩きやハイキング等はあまりやった事が無いので迷惑かけるのではと思ったのですが、自然は好きですし、花や虫の写真が撮れると良いなと参加しました。初めて行った時は(今もですが)、皆さんの歩く速さについて行けずビックリしました。又、山肌での倒木の玉切りや枯木の伐採等の作業がかなり厳しい。太い倒木を見つけた時の皆さんの嬉々とした様子を見た時はやばい人達だと思いました。しかし作業前や林床整備・伐倒時の注意等、非常に納得のいく説明が毎回しっかりあるので感

心しています。私は山のノウハウも体力や気力も無いので、落ち枝集めや細い倒木処理等で楽しませてもらっています。これからも怪我なく、楽しく参加したいと思います。



山田真也 「トレランがきっかけで出会った素敵な縁」

最初に会の皆さんにお礼を言わせて下さい。いつもありがとうございます。

私は5年程前トレラン(トレイルランニング)に出会ったトレラン愛好家です。去年の台風21号が来るまでは当たり前のように嵐山から箕面へ東海自然歩道をトレランして遊んでいました。しかし台風の被害は甚大でトレランはおろか山に入ることも出来ず、「自分に何か出来ることをしたいと思っていたところ職場で「みどりのトラスト」を拝見しました。本山寺山森林づくりの会の実情や活動内容を知って参加させて頂くことになり、すぐに入会希望を伝えました。鋸やチェーンソーは仕事でも使うので東海自然歩道の復旧活動や保全活動の役に立てればそれ以上の喜びはありません。

倒木の処理だけでなく作業道を造ったり、林床整備をしたり、間伐作業をしたり、色んな作業があり、危険な作業もあります。国有林は東海自然歩道とは違ってふかふかのトレイルでリスもよく見かけます。いつも走っていた場所のすぐそばにこれほど素敵な場所が残っていた事や本山寺の湧き水の秘密も初めて知りました。

これからもこんな素敵な場所で先輩方から色々と教わりながら安全第一に楽しんで活動を続けていきたいです。そしてこうした活動があることをトレラン仲間にも伝えていきたいです。これからもよろしくお願いします。

安全な作業のために

本会では作業の安全を図るため、計画的に安全講習・研修を実施し、また、毎回の作業前・後に注意喚起しているところである。しかし、作業に気を取られると、斜面の上と下とで同時に作業をしていることに気づかなかったりすることもある。中でも立木を伐る作業が最も注意を要する。伐倒作業は緊張感に満ち倒すときの快感もあるが、それらは危険との隣り合わせである。作業中は常にチーム内で声を掛け合い、安全を確認し合いながら進めることを習慣化することに努めるとともに、この作業の重要なポイントをまとめてみた。

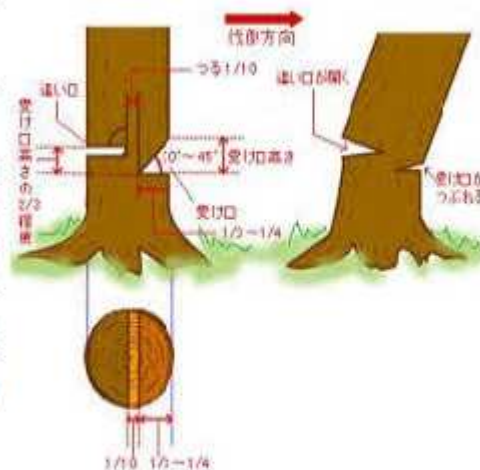
1. 伐倒作業について

- 伐倒方向は、幹の傾きや枝ぶりから重心の向きを判断し、横方向か斜め方向とする。
(上方向や下方向は、伐倒した木が、そして玉切りした木が斜面を滑り落ちるため、方向として選択しない。ただし、現場の状況によっては掛かり木を避けるため、上方向あるいは下方向を選ばざるを得ない場合がある。この場合はそれぞれの特徴を理解したうえで作業を行う)
- 下方向 重心が谷側にある立木を下方向に倒すのは容易である。しかし、倒れる速度が速くなるため危険性も高まる。この場合「つる」(※1)の厚みを利用して伐る。
- 上方向 重心が谷側にある木を上方向に倒すには、かなりの「起こし木」になりエネルギーを要する。この場合「くさび」(※2)を使う。

(※1)「つる」:「安衛則」(※3)では「切り残し」という。つるは①伐倒方向を確実にする ②伐倒する立木の安定を保つ ③伐倒木の倒れる速度を遅くする、3つの役割がある。つるの幅が狭すぎると立木が早く倒れはじめ、木が裂けたり、伐倒方向がズれたりする。下方向に倒す場合は「つる」の幅を厚めにし、方向や安全性を確認後、受け口がゆっくりと潰れるように伐り進める。

(※2)「くさび」:ノコが咬まれな

いように「ノコの道」をつくるため。また伐倒方向を確実にするために使う。2本を均等に打ち込み、片利きにならないように。重心を山側に移す(起こし木)ために使うが、現場では伐倒方向を確実にするためにロープと併用した方がよい。



全てのヘルメットに呼子（笛）が取り付けられている。周囲に注意等を知らせる場合に使うが、特に伐倒作業の場合は、受け口切りの前（予備合図 1 回鋭く短め）、追い口切りの前（本合図 2 回）、伐倒後（終了合図 1 回長め）に使いこなせるように心がけたい。同時に、当事者以外の者は「立木の高さの 2 倍に相当する距離」（安衛則第 481 条）内に立ち入らないように定められている。その他、安衛則 第 477 条「伐木作業等における危険の防止」、478 条、479 条にも同様の定めがある。

（※3）安衛則；労働安全衛生規則

用語の説明

・テープの色分け

- 赤 色 危険木 作業道などに倒れ掛かる怖れのある枯れ木などに巻く
- 白 色 伐採木 除伐などを予定する場合に巻く
- 黄 色 特定のマーク。モニタリング区域など
- 青 色 保存木 枯れ木でも生物の多様性を維持・存続していくうえで必要と判断した場合に巻く

ピンク 境界明示

※ 笛を吹く回数やテープの色分けは我々の活動で用いるための取り決めである。

・44 林班 45 林班

林班（りんぱん）とは森林区画の単位をいう。森林の位置を明確にするために尾根筋、谷筋等の自然地形で分けている。市町村単位で付けている。国土地理院の地図には掲載されていない林道や歩道なども記入されている。

林班内で樹種や林齢別などに細分化して「い、ろ、は、に」を付けたものを林小班（りんしょうはん）という。林小班のなかで自然の地形などにより、さらに細分化した場合「1、2、3」のアラビア数字で表す。

〔い〕 保安林

〔ろ〕 植林地

〔は〕 二次林（原生林（一次林）が伐採や山火事等により破壊されたあと、自然または少し人工的に再生した森林）

〔に〕 天然林

参考：46・47 林班は楊梅山^{ようばいざん}、48 林班は安満山^{あまのやま}にある（高槻市内は以上）

- ・除 伐 育成途中の若い木を守るために、育成する木以外の木を伐ること。
枯れ木を伐る場合にも用いる
- ・伐 倒；立ち木を切り倒すこと。伐木（ばつぼく）、伐採（ばっさい）ともいう。

本会の活動拠点と本山寺の紹介

月2回(第1木曜日・第3日曜日)の活動は、この物置周辺(国有林のほぼ中央)に集結し、作業着に着替え、作業の内容や場所を確認することから始まる。そしてチームを編成して出発する。



上は、物置の内部



右は、1月3日「初寅会」の大護摩
本山寺は、国の重要文化財である毘沙門天立像を本尊とする天台宗の寺院である。境内には清らかな冷たい湧き水が溢れ、作業前後の憩いの場として、また、東海自然歩道のハイカーたちにも人気の場所となっている。湧き水は本山寺の關伽水(あかみず)で、44林班中の谷に湧き出している。

下は、本山寺の門前にて、本会の顧問である百済住職を囲んで記念写真



雑 感

本会の作業ぶりや整備されていく山の姿はホームページで随時更新している通りだが、当会の成り立ちを含めより詳しく知って頂く上で紙ベースの情報誌も貴重な存在である。こうした認識のもと、第3号の編集を進めてきた。ご協力頂いた方々に先ず感謝申し上げたい。

さて、本山寺山は大きくはボンボン山(678.9m)への一峰で、向うボンボン山にはもとは加茂勢山(かもせやま)という立派な名前が付けられていた。今では国土地理院すらボンボン山と表記するほどで、我々がこの親しみのある山域の一角、本山寺山の国有林をフィールドとして森林保全の活動を始めてまる7年が過ぎた。ところが活動地一帯は国有林なので自然歩道を歩く方々は立ち入れないが、山の中のどこの斜面を歩いてもこれほどの急斜面は経験したことがない、と思うほど急斜面の連続である。しかも“岩山”だから樹木の根は浅く大風に耐えられない。そして大雨が降れば土砂は直ぐ流れ落ちる。作業道は流され、溪流は埋まり伏流水となる。作業中にのどが渇いても谷の水は手に入らない。小鳥の声が他と比べて少ないと感じるのも水が少ないせい、かもしれない。ほんわかとしたイメージを持つ山名からは想像しにくい厳しい自然の摂理を感じさせる。必然的に作業も最大限の注意を要することになるが、同時に森林づくりということの大切さを肌を感じる場面でもある。

ところで、「森林経営管理法」という耳慣れない法律が、2019年6月に改正されたとの報道に接した。国有林を最長50年間、数百ヘクタールの伐採・販売権を民間業者に与えることができるというものである。伐採と造林を別々に委託するというのが現行ルールだそうだが、改正法では伐採業者に再造林を“申し入れる”ということらしい。現行法の下でも、伐採は大型重機を入れて行っているため、「砂利の降る山」と言われ強風が吹くと伐採後は小石や土が斜面を転がり落ちる山があるという。外国資本もOKということなので、国有林をフィールドにする我々にとって気になるニュースではある。



編集後記

会報第3号をようやくお届けすることができました。多くの資料、写真、イラスト、そしてご助言を提供していただいた方々に先ずもって御礼を申し上げます次第です。

昨年9月、大型の台風に本山寺山が直撃され、大きな被害を被りました。作業道の復旧、倒木処理など今なおメドが立たないほどに傷跡は大きく深い状況です。反面、復旧作業に「すわ！かまくら」とばかりはせ参じてくれた人たちがいます。本山寺山に接している東海自然歩道をトレイルランしている若い人たちです。森林づくりの会は年々平均年齢が高くなってきているなかで、若い人たちが作業に加わってくると、その人数以上に活気が満ちてきます。台風の贈りもの、でしょうか。温暖化が進む中、今後どのような災害に見舞われるかわかりませんが、“森林づくりは仲間づくり”、につながることを伝えれば、この上もない編集の喜びです。



本山寺山森林づくりの会会報「あかがし」第3号

編集者：倉谷邦雄

発行者：本山寺山森林づくりの会

発行日：2019（令和元）年10月

発行所：〒530-0015 大阪市北区中崎西 1-4-22 梅田東ビル3階304号

公益社団法人日本山岳会関西支部

事務局連絡所：斧田一陽方 072-633-6556 FAX 072-633-6556

武田嘉夫方 090-2042-9101

E-mail:enn-no-odunu@ares.eonet.ne.jp

ホームページ：「本山寺山森林づくりの会」と入力し開いた画面の中で「活動記録」を選択

